

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号

0011

平成31年度行政事業レビューシート (法務省)

事業名	裁判員裁判への対応			担当部局庁	刑事局	作成責任者			
事業開始年度	平成21年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務課	総務課長 濱 克彦			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	刑法、刑事訴訟法、裁判員の参加する刑事裁判に関する法律			関係する 計画、通知等	司法制度改革審議会意見(平成13年6月) 経済財政改革の基本方針2009				
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	一般の国民が裁判員として刑事裁判手続に参加し、裁判官と基本的に同等の権限をもって事実認定、量刑等の判断に関与するという、従前の刑事手続や裁判実務の内容を大幅に変更させるものであるから、裁判員となる国民の負担をできる限り軽減するために、裁判を分かりやすく充実・迅速化させるとともに、裁判員裁判の下でも被告人の権利を保障しつつ、適正妥当な事実認定と量刑を得ることを目的としている。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	裁判員裁判の下でも、従来の職業裁判官のみによる裁判と同様に、適正妥当な事実認定と量刑を得られるよう、検察官が、裁判員の視覚に訴えるビジュアル資料を多数作成するなどして、裁判員にとって、分かりやすく印象深く、信頼される立証活動を行うことができる体制を整備する。 また、捜査段階や公判の遂行の過程で地理的に離れた地検支部と本庁間においても、詳細な情報交換や捜査指揮、処理方針の決裁等を機動的に迅速に行える体制を整備する。								
実施方法	直接実施								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	74	74	100	63	81		
		補正予算	-	-	453	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	453	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	▲453	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計	74	74	100	516	81			
	執行額	68	72	98					
	執行率(%)	92%	97%	98%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	92%	97%	18%					
平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	31年度当初予算	32年度要求	主な増減理由					
	検察業務庁費	40	58	「新しい日本のための優先課題推進枠」37百万円 ・検察業務庁費 ・裁判員裁判専用法廷対応モバイルパソコンについて要求したことによる増					
	検察旅費	23	23						
	計	63	81						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
		達成度	%	-	-	-	-	-	
定量的な目標 が設定できない 理由及び定 性的な成果目 標	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と28~30年度の達成状況・実績					
	本事業は、法律に基づき実施する裁判員裁判について、裁判員の負担をできる限り軽減するため、裁判を分かりやすく充実・迅速化させるとともに、被告人の権利を保障しつつ、適正妥当な事実認定と量刑を得ることを目的としていることなどから、定量的な成果目標(いつまでどの程度といった目標)を設定することが困難である。			裁判員にとって分かりやすい立証活動を行う。 各年度において、分かりやすく、信頼される立証活動を適切に行った。					
事業の妥当性 を検証するた めの代替的な 達成目標及び 実績	代替目標	代替指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 31 年度	目標最終年度 - 年度
	検察官の法廷での説明等に対して、裁判員が分かりづらいとする割合を0%とする。 なお、中間目標の目標値は、過去3か年の平均値以下とし、令和元年度においては、4.5%以下とする。	最高裁判所で実施している裁判員に対するアンケート(検察官の法廷での説明等が分かりにくいと回答した者の割合)	実績	%	4.5	4.8	4.1	-	-
			目標値	%	4.2	4.4	4.4	4.5	-
			達成度	%	93	92	107	-	-

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込	
	活動実績	当初見込み							
裁判員裁判対象事件の起訴件数	活動実績	件		1,105	1,131	1,117	-	-	
	当初見込み	-		-	-	-	-	-	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込		
	(X)予算執行額/(Y)裁判員裁判対象事件起訴件数	単位当たりコスト					円/件	61,950	63,569
		計算式	X/Y		68,455,000/1,105	71,896,000/1,131	98,018,000/1,117	-	
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	検察権の適正迅速な行使(Ⅱ-5)							
		施策	適正迅速な検察権の行使(Ⅱ-5-(1))						
	測定指標		定量的指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標
				-					-
				実績値	-	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)				
				-	施策の進捗状況(実績)				
	取組事項	分野:	-						
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時	30年度	31年度	中間目標
			-	-		-			-
			成果実績	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-		
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時	30年度	31年度	中間目標	目標最終年度	
				-			-	-	-
			成果実績	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-		
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

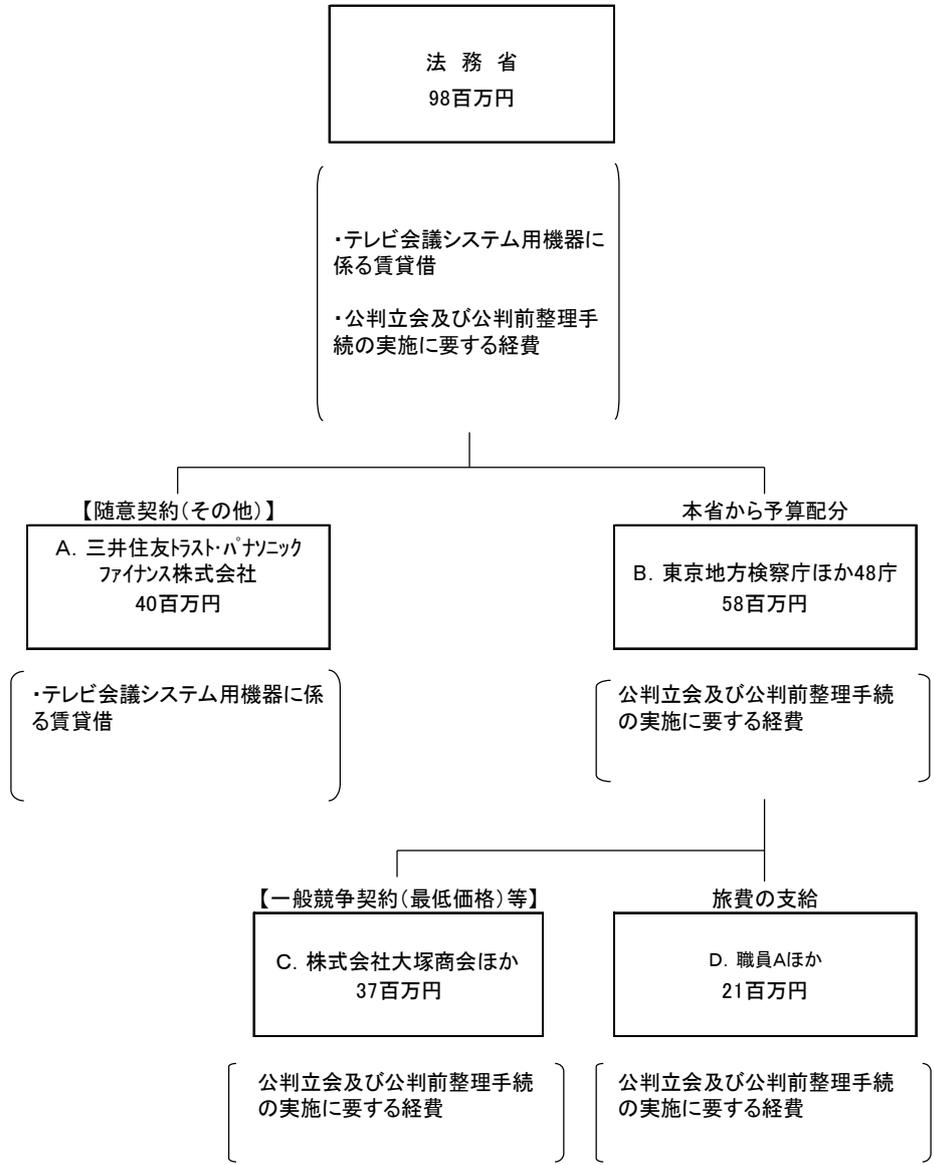
項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	裁判員にとって、分かりやすく、印象深く、信頼される立証活動を行うことができる体制を整備するもので、広く国民のニーズがある。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	刑事事件の捜査・公判等の検察権の行使は、国が実施すべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	-	-
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	可能な限り入札を実施し、競争性を確保している。また、随意契約となったものについても、保守に必要な技術等を契約の相手方のみが有していたこと等によるものであり、妥当である。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	使途を事業達成のために必要なものに限定している上、コスト削減に努めており、妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	費目・使途は事業目的に対し、必要なものに限定されている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	旅費について、旅費法等の関係法令に沿った適切な執行により、その削減を実行している。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	-
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	使途を事業実施のために必要なものに限定しており、低コストで実施できている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	-
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	整備された機器は十分活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	公判立会及び公判前整理手続の実施に要する旅費について、旅費法等の関係法令に沿った適切な執行等により、執行額の削減が図られている。また、各庁において調達している物品等についても、市場動向・過去の調達実績や類似調達事案等を踏まえた物品調達を励行し、執行額の削減が図られている。	
	改善の方向性	更なる経費の削減に努めるとともに、執行実績等を踏まえ、令和2年度予算に反映させることとする。	
外部有識者の所見			
事業全体として大きな問題はない。裁判員制度の運営に当たっては、国民の理解を得ることが重要であるため、裁判員経験者の意見等にも留意の上、引き続き適正な予算執行に努められたい。(井上東委員、瀬戸洋一委員、竹澤香織委員)			
行政事業レビュー推進チームの所見			
一部の事業内容改善	各経費について執行実績を踏まえた見直しを行い、経費の削減を図るべきである。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
縮減	旅費について、執行実績を踏まえた見直し等を行い、その結果を適切に反映して経費の削減を図った(▲1百万円)。また、外部有識者の意見も踏まえ、今後も適正な予算の執行を行っていくこととした。		
備考			

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	0034	平成23年度	0031	平成24年度	0033	平成25年度	0011
平成26年度	0010	平成27年度	0010	平成28年度	0010	平成29年度	0010
平成30年度	法務省 (0010)						

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて
補足する)
(単位: 百万円)



C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社大塚商会	1010001012983	コピー用紙購入	8	一般競争契約 (最低価格)	4	79.7%	-
2	コニカミノルタジャパン株式会社	9013401005070	複写機保守	5	随意契約 (その他)	-	100%	-
3	株式会社隆陽社	9180001023098	コピー用紙購入	2	一般競争契約 (最低価格)	4	95.6%	-
4	レスター工業株式会社	2120001092320	コピー用紙購入	2	一般競争契約 (最低価格)	4	90.8%	-
5	大丸株式会社	5430001009629	コピー用紙購入	2	一般競争契約 (最低価格)	2	99.8%	-
6	株式会社開周堂	8040001001325	コピー用紙購入	2	一般競争契約 (最低価格)	4	95.4%	-
7	株式会社シミズ	5140001008404	コピー用紙購入	1	一般競争契約 (最低価格)	3	88.8%	-
8	株式会社千葉測器	8040001004699	複写機保守	1	随意契約 (その他)	-	100%	-
9	株式会社リコー	2010801012579	複写機保守	1	随意契約 (その他)	-	100%	-
10	武正株式会社	7030001060307	コピー用紙購入	1	一般競争契約 (最低価格)	5	96.2%	-

D

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	職員A	-	職員旅費	0.4	その他	-	-	-
2	職員B	-	職員旅費	0.3	その他	-	-	-
3	職員C	-	職員旅費	0.2	その他	-	-	-
4	職員D	-	職員旅費	0.2	その他	-	-	-
5	職員E	-	職員旅費	0.2	その他	-	-	-
6	職員F	-	職員旅費	0.2	その他	-	-	-
7	職員G	-	職員旅費	0.2	その他	-	-	-
8	職員H	-	職員旅費	0.2	その他	-	-	-
9	職員I	-	職員旅費	0.2	その他	-	-	-
10	職員J	-	職員旅費	0.2	その他	-	-	-